

イングランドプレミアリーグに関する考察～戦績と投資の観点から～

A consideration on England Premier League~From light of grade and investment~

1K06B101

指導教員 主査 宮内孝知先生

坂本 純士

副査 武藤泰明先生

【第1章 諸説】

近年欧州サッカーの舞台においてプレミアリーグのクラブが戦績と収益の両面で他国のリーグのクラブを圧倒している。UEFA ランキングトップ10には4クラブがランクインしており、国際監査法人デロイトによるクラブ収益ランキングトップ20にも7クラブがランクインしている。この要因として、イングランドではクラブチームの株式上場が盛んに行われていることが挙げられる。また、近年外国人オーナーによるクラブチームの買収が盛んに行われていることも関係していると考えられる。そこで本研究では株式上場と外国人オーナーによる買収がクラブチームに与える影響を検証し、クラブ戦績との関連性を考察した。

【第2章 フットボールクラブの株式上場】

本章では最初にイングランドプレミアリーグにおける株式上場の起源を検証し、次に株式上場のメリット及びその限界について考察を行った。

フットボールクラブの株式上場は老朽化したスタジアムの改修費、新しいスタジアムの建設費を確保するための資金繰りの一環として始められたのであった。

株式上場のメリットはリスクが高い負債による資金調達を減らすことによって、クラブチームの運営を安全に行うことが出来ることである。しかし、株式上場によってクラブチームは一般企業と同じようにその経営状態を公開しなければいけないという制約が課されることとなる。

【第3章 フットボールクラブの財務諸表分析】

本章では実際に一投資家としての観点からクラブチームを測るために財務諸表分析を実施した。使用する財務分析手法として収益性分析(総資産利益率、自己資本利益率)、安全性分析(自己資本比率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、負債返却年数)、成長性分析(売上高伸び率、利益伸び率)などを採用した。分析結果としてクラブチームの収益性は年度ごとの変動が激しく、また短期的な安全性には問題はないが長期的な安全性に問題があることを明らかにした。

【第4章 フットボールクラブの買収】

現在プレミアリーグに所属する20クラブのうちおよそ半数にあたる9クラブが外国人オーナーに買収されている。本章ではプレミアリーグの各クラブチームの買収状況を検証し、フットボールクラブの買収がクラブチームにどのような変化をもたらしたのかを考察した。

クラブチームは買収によって移籍市場で他のリーグと比較して積極的な選手補強を行なうことが可能になり、実際多くのクラブチームが買収後に戦績を向上させることに成功した。しかし、オーナーとの軋轢による監督解任やサポーターの反動など様々な弊害をもたらすことが明らかになった。

【第5章 結論】

以上の調査によってフットボールクラブの株式上場及びそれに伴うチームの売却は、中堅ク

ラブでもビッグクラブと対等に渡り合う方法になりえるほど魅力的な手段ではあるが、それには様々な弊害が伴うことも判明した。また昨今の金融危機によってオーナーの資金繰りの悪化にクラブチームが巻き込まれるという問題も発生している。クラブチーム買収によってオーナーが与える影響が強ければ強いほど、クラブチームの経営は不安定になるものであるといえる。